
医薬品保冷輸送サービス「DP-Cool」について

DPネットワークでは、輸送中のトラック荷室内の温度について次の通り考えております。

- 荷量・荷姿・外気温などの変動要素が多く、空気の流れや温度分布が一定ではない
- したがって、常時ある程度の温度斑が発生している

よって、2-8℃という幅が狭く厳格な温度管理が要求される保冷輸送において、ワーストポイント（温度が最も高い/低い場所）を特定/限定し、そのポイントのみの温度モニタリングでトラック荷室全体の温度を保証する事は難しいと考えております。

「DP-Cool」の特徴は、事前の実証実験や日々の運送の実態から導き出した上記の見解から、トラック荷室全体に渡り複数の温度計を設置してトラック荷室全体の温度を常時「見える化」し、継続的に検証するベリフィケーションの考え方を導入している点です。製品から離れたポイントの温度ではなく、製品により近いポイントの温度モニタリングを通じて、医薬品の輸送中の真の温度推移を製薬会社様と共有し、輸送の実態を捉えた品質保証に繋げております。

また、トラック荷室全体の温度を「見える化」し初期事象（特定ポイントの軽微な温度異常）の段階から専門スタッフによる早期の是正処置をおこない、重大インシデント（重度かつ複数ポイントの温度異常）を未然に防ぐことに繋げております。さらに、これまで取得した多くのデータに裏付けされた科学的根拠のある分析・改善を実現し、輸送ルートや輸送車両ごとの特性を踏まえたリスクベースの対策立案・改善活動（CAPA）に繋げております。